

SDGs でプレイスメイキング ～「能登応援フェスタ+森本納涼 BON」～

団体名●新ゼミナール／代表者名●新 広昭（副学長・経済学部教授）

はじめに

本事業は、本学と森本商店街振興会との「連携に関する覚え書き」に基づき、森本商店街を“SDGs 商店街”としてブランディングすることを目的に新ゼミナールで取組んでいる活動であり、2024年度で4年目となる。

活動内容

本年度は、「SDGs11 住み続けられるまちづくりを」を目標に、森本商店街振興会が主催した能登応援フェスタ(8月)



及び森本納涼 BON (9月)のイベントにおいて、プレイスメイキング(居心地の良い場づくり)の考え方を取り入れた会場のレイアウトや出し物をゼミ生が企画し、それらの「しかけ」が居心地の良さや滞在時間に影響したかにつ

いて、来場者アンケートにより検証を試みるという活動を行った。

次に、アンケート調査の結果の一部を紹介する。

森本納涼 BON では、主催者の予想を大きく上回る2,000人もの来場があったが、来場のきっかけについての設問の回答を下表に示した。

行ラベル	チラシ・ポスター・看板	知人から聞いた	賑やかな音や音楽が聞こえたため
その他金沢市内	28.6%	71.4%	0.0%
金沢市外	20.0%	80.0%	0.0%
森本地区	69.1%	27.3%	3.6%

森本地区ではチラシ・ポスター・看板を見て来場した者が約7割と圧倒的に多かったのに対して、森本地区以外では知人から聞いた、つまり口コミを

きっかけに来場した者が7割～8割を占め、大きな違いを見せた。また、来場者(主催者・関係者を除く)の



森本納涼BONでのアンケート調査

滞在時間を見たところ、「3時間以上」が21.6%、「2時間～3時間」が16.5%、「1時間～2時間」が30.9%と1時間以上滞在した者が7割に上り、イベント会場が来場者にとって居心地のいい場であったことが推測される。

成果の考察、今後の課題

11月11日に報告会を開催し、商店街振興会の役員の方に来場動機、滞在時間、課題などのアンケート調査結果や来年度のイベントに向けた提案を報告した。この報告をもとに役員の方と学生とでディスカッションを行い、学生の提案の実現に向け、来年度も連携活動を継続することとなった。今後は、イベントを一過性のものに終わらせずに、森本商店街の持続的なプレイスメイキング活動につなげていくことが重要であると考えている。



報告会でのディスカッション

なお、森本納涼 BON のアンケート調査実施及び報告会の開催について、それぞれ北國新聞において5段1/2の大きな記事として取り上げられた。